



大きな視点で考えると…



高校生の頃、世界史の教科書を見ていると、53ページに「ゲルマン人の大移動」というのが出てきました。それが原因でヨーロッパは混乱し、ローマ帝国が衰退していったと書かれていました。「なんでゲルマン人は移動したんだろう？」と思いました。そして81ページに、遊牧民の移動が始まり、中国に侵入して、三国時代、五胡十六国時代などの分裂の時代に向かいはじめたと書かれていました。またしても「なんで遊牧民は移動したんだろう？」と思いました。実は、ヨーロッパと中国というはるかに離れた場所で起こった二つの出来事は、同じ原因からはじまっていた。

3世紀頃、世界的な気候の寒冷化があったそうです。すると、ユーラシア大陸の北部（今のロシアやカザフスタン、モンゴルなど）は寒さで暮らしにくくなり、その辺りに住んでいた人たちは暖かい土地を求めて南へ向かいはじめます。地図を見ると、南には天山山脈などの大きな山があります。彼らは遊牧民で、馬や羊をたくさん連れていて、険しい山を越えるのは難しいので、西と東に分かれて進みはじめます。土地の広さやとれる作物の量には限りがあるので、よそからいきなり大勢の人がやって来ても全員が住むことはできません。そのため、素通りして進んだり、もともと住んでいた人から武力で土地を奪ったりすることになります。土地を奪われた人も、住む場所を求めて移動をはじめます。こうして移動する集団はどんどん大きくなっていきました。

西へ向かったのが「ゲルマン人の大移動」となり、東へ向かったのが「遊牧民の中国への侵入」となったのです。全く違う場所で起こったできごとでも、はじめは同じということです。「なるほど」と腑に落ちました。そんな「なるほど」なことがたくさん書かれているのが『全世界史講義 教養に効く！人類5000年史』（出口治明著 新潮社 2016年）です。5000年前から現代までの世界史を述べたこの本の特徴は、歴史を地域ごとに分けていない点で、世界史全体の流れをひとつのものとして扱っています。人は地域を越えて移動し、互いに影響し合いながら生活してきました。そのため、地域ごとに分けて歴史を見ていると「なんでこうなったんだろう？」という疑問がわいてきます。そこで、少し離れて全体を見わたすと、分かりやすくなります。この本は、そういう大きな視点で書かれていて、世界史の授業で習う内容の背景にある世界全体の「横のつながり」を理解するのに役立つように思いました。

ところで、この本の著者である出口治明さんは実業家で、ライフネット生命の創業者です。そんな人がなぜ歴史の本を書いているのかなと思うかもしれません。出口さんは大変な読書家としても知られ、古典を特に愛読されていて、古くからある歴史書や物語を読むことは、日々の仕事の役に立つと語っておられます。出口さんがいくつかの本の中で述べられていることなのですが「人間の脳は1万3000年前から進化していない」という話があります。つまり、昔の人が今の私たちよりも遅れているなどということとは決してなく、今の私たちが生活の中で感じている悩みや葛藤、喜びや楽しさは昔の人も同じように感じてきたことなのです。そのため、今を生きる私たちが歴史や物語を読んで、昔の人の生き方を学ぶことは、世の中のことを理解することや、日々生活をおくる上での参考になると思います。昔の人に共感しながら読むと、歴史の勉強も楽しくなるかもしれませんね。

P. S . 出口さんは歴史や読書に関する本を多く書いておられます。下に挙げたものは松蔭の図書館にあるので、ぜひ手にとってみてください。



『全世界史講義 教養に効く！人類5000年史』（全2巻）出口治明著 新潮社 2016年

『本の「使い方」 1万冊を血肉にした方法』出口治明著 KADOKAWA 2014年

『座右の書『貞観政要』 中国古典に学ぶ「世界最高のリーダー論』』出口治明著 KADOKAWA 2017年

『「働き方」の教科書 人生と仕事とお金の基本』出口治明著 新潮文庫 2017年

